

○胸部CT検査

6000円（税込み）

レントゲン検査とくらべて、胸部CT検査では肺の隅々まで確認できます。そのため異常陰影の検出感度をあげることができます。またCOPDでみられる肺の気腫性変化も確認することができます。しかし検診の場合は症状のない方に実施することになるため、下記のことをご了承いただく必要があります。

<考えられる利益>

- ・肺がんが早期に発見され、肺がんによる死亡を免れる可能性
- ・死亡を免れるには至らなくても、有効な治療を受ける機会が増し、生存期間の延長が得られる可能性
- ・肺がん以外の疾患（肺結核など）が発見され、早期治療に結びつく可能性

<考えられる不利益>

- ・放射線被ばくによる健康被害の可能性※
- ・偽陽性による経済的・精神的・時間的損害の可能性
- ・精密検査過程における合併症の可能性
- ・過剰診断による、本来なら受ける必要のない肺切除を受ける可能性

※放射線被ばくについて

検診の場合は症状の無い方を対象とするため、なるべく放射線量を少なくした低線量CT（約1.6mSV程度）が推奨されています。当院では異常陰影や気腫性変化をしっかりと評価するために、画質の点から通常のCT検査としていますが、ご要望があれば低線量CTも実施することができますのでご相談ください。

放射線被ばくのは害ですが、100mSVの放射線を一度に全身に被ばくすることで生涯の癌による死亡率が0.5%増加するとされています。当院では新しいCT装置を導入し、日頃から被ばく量には十分に配慮しているつもりですが、通常の胸部CT検査では約5~6mSV前後の被ばくが想定されます。（放射線被曝量は体格により個人差があります。）（参考：胸部レントゲン検査0.05~0.1mSV前後、胃透視検査3.0mSV前後、1人あたり年間に受ける自然放射線の世界平均値2.4mSV、東京-ニューヨーク飛行機往復0.2mSV）一度に大量の被ばくでなければ、短時間でDNAは修復されるとされており、今のところこの程度の被ばく量での影響は確認されていません。

